

第60回小島三郎記念文化賞並びに 第32回研究助成金贈呈式

第60回小島三郎記念文化賞並びに第32回研究助成金の贈呈式が2024年10月25日(金)午前11時より、東京會館(東京千代田区)において開催されました。



渡邊治雄理事長

小島三郎記念文化賞

小島三郎記念文化賞の受賞者は、旭川医科大学 感染症学講座 微生物学分野 教授の原英樹先生で、受賞のテーマは「自然炎症を介した病原細菌感染症の重症化機構の解明」です。原先生は、感染により過剰に形成されたインフラマソームが、感染防御ではなく、逆に不適切な持続した炎症を惹起し、感染の増悪や炎症を悪化させるという研究成果から、インフラマソーム炎症を阻害することで病原菌の臓器内増殖を抑制できることを発見しました。これらの事象は多くの病原菌にあてはまることから、医療現場で問題となっている様々な感染症の重症化を阻止する治療法の開発につながる事が期待されています。よって、これらの業績が高く評価され受賞の対象になりました。

贈呈式は、本財団渡邊治雄理事長の開会の挨拶で始まり、続いて同理事長より「今回推薦された小島三郎記念文化賞候補者の業績は、何れも極めてレベルの高いものであり、厳正な審査の結果、原英樹氏を受賞者に決定した。」との選考経過報告があり、同氏に賞状と記念トロフィー、副賞が贈呈されました。

また、原氏を推薦された旭川医科大学医学部 学長の西川祐司氏より推薦のお言葉をいただき、同氏の業績を紹介いただきました。



原英樹氏 旭川医科大学 感染症学講座 微生物学分野 教授
業績：自然炎症を介した病原細菌感染症の重症化機構の解明



西川祐司氏



宮地勇人理事

研究助成金

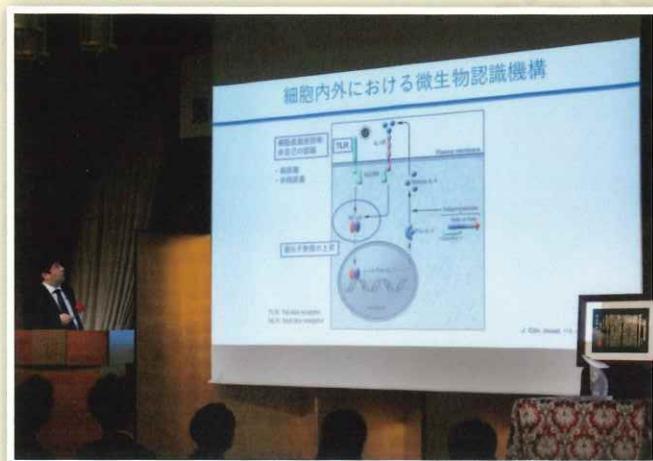
研究助成金の選考経過については、選考委員長である本財団宮地勇人理事より、「申請応募件数183件から選考委員会で審査・選考され、厳正な審査の結果、特に優れた19名に決定された。」との報告がされた後、理事長より研究助成金、総額1,820万円が贈呈されました。

受賞者挨拶

小島三郎記念文化賞を受賞された原英樹氏より、「本受賞は私個人の力だけではなし得なかったものであり、これまでご指導いただいた先生方や教室員の皆様、そして家族の協力が不可欠であったことを再認識しています。今後も感染症の重症化機構の解明や薬剤耐性菌問題など、国際的課題の解決に尽力できればと考えております。」と受賞の喜びと今後の抱負を述べられました。



助成金受贈者（敬称略）
 (後列左より) 錦織亜沙美、波多野裕一郎、東本祐紀、福岡講平、今村剛朗
 (前列左より) 石黒旭代、岡野隆一、荻美貴、笠原秀範、黒木秀作、鈴木瑛真



講演会の様子

引き続き、受賞の先生方を囲んで祝賀会に移り、本財団の光山正雄理事のお祝いの言葉と乾杯が始まりました。今年度より研究助成金受贈者の研究課題が祝賀会場に掲示され、他先生方との交流がより強く図られました。その後祝賀会は盛会のうちに散会となりました。

(事務局 田代 保之)



荻美貴氏



寺本哲也常務理事



光山正雄理事

また、兵庫県立健康科学研究所 感染症部 主任研究員 荻美貴氏より研究助成金受贈者を代表して、「今回の研究助成金をいただいたことは大変嬉しく、有難く感じております。私たちの研究が、公衆衛生上のリスク評価に役立ち、感染症対策に貢献できるよう尽力していく所存です。今回の受贈を糧に、研究に一層精進し、今後の臨床医学及び公衆衛生の発展の一助となるよう、真摯に課題に取り組んでまいりたいと考えております。」と受賞の喜びと今後の抱負を述べられました。

謝辞の後、原英樹氏による受賞テーマの「自然炎症を介した病原細菌感染症の重症化機構の解明」についての受賞記念講演があり、研究内容を解りやすく説明していただきました。

最後に本財団寺本哲也常務理事より閉会の挨拶があり「原氏には心よりお慶び申し上げます。また、研究助成金受贈者の方々にはこの助成金を有効に使い、先生方の研究が更に進展されることを期待している。」と述べられました。



祝賀会の様子